

## 第一回観望会ボランティア参加して

清水湧三（放送大学）

第一回観望会のスタッフの皆様、ご苦労様でした。

今回、私自身、雨天で帰りの最終電車の時刻が気になってしまい、観望会終了後の後片付け、反省会には中座する仕儀となり、ボランティア活動としては不完全燃焼で、皆様には大変申し訳なく思っております。以下のような感想拙文でご了承願います。

「雨の観望会」なるものは一体どのような仕儀になるだろうかと、初めて「雨天」という条件下で参加する私にとって興味半分、不安半分です。それは雨でも参加してくる人たちの思いは、またそれを迎えるボランティア側の受け入れはどのようにすれば良いかでした。スタッフミーティングの前に、集まりだした部屋での出来事です。「3日に1日でも晴れば良いというのが観望会というもの」という柴田台長の言葉で、妙に納得した自分がありました。考えて見ればごく当たり前のことなのですが、登山をよくする私にとって、雨があつて曇りがある、そして晴れがある山々はごく普通の出来事なのに「星空を見る」ということ目的意識を強くしていた結果なのでしょう。まさに、コレすべて自然現象で己も自然体で居ればよいのだと改めて思い直しました。

花山天文台の歴史的な経緯などの話が始めるとはなしにいろいろな話題が披露され原子核物理学の分野で用いられる長さの単位の話に及んで、湯川秀樹博士に因んだ「ユカワ単位」が存在したというお話は初めて聞く内容で興味深かったです。1 フェルミ=1ユカワ=1 フェトメートル(SI 単位系)ということなのでしょう。雑談風に、このような興味深い話が聴ける雰囲気、ことさら好ましく楽しく感じられ、これがこの観望会ボランティア冥利というもの。毎週でも観望会を開きたいという話も星空を望める機会を増やすことにつながる事、そして以前に、黒河先生の講義で将来構想としてプラネタリウムの設置という話も、星空が望めない今日の様な状況下にてこそ有効な取り組みの一環である事も納得できた次第です。この事を紹介された当初、天文台とプラネタリウムとが即座に概念的に結び付かなかったのです。実物が観られる施設になぜ虚像を見る機械が要するのかという単純な疑問でした。

さて、私の今回のボランティア役割担当は引率最終組のD組でしたが、キャンセル状況や参加者が少ないこともあって、前の組に吸収させることとなり実質はC組サポート役でした。その状況を少し説明しますと、受付スタッフの情報から、キャンセル連絡が無い参加者として数名まだあること、さらに蹴上で数名、時間待ち状態である事をシャトルバスの運転手さんから聞き出した事から始まりました。これら小人数でバラバラ状況と、受付スタッフのこの時点での新たな参加ないとの判断とで、少ない参加者をまとめる方向で行こうということになりました。最終組の待ち合わせ時間を繰り上げシャトルバスを出発してもらうように、もう一台、蹴上で待機中の運転手さんへ電話連絡を依頼しました。結果として、引率役割業務としては上手く臨機応変に対応できたかなと思っています。

ボランティア参加者が多くあれば、蹴上での要員配置もあってよいのではないかと、そうすれば待ち合わせ現場での参加者へ不安感払拭や、的確な状況把握も出来るかなとの思いもあります。また、雨でも参加した人へのフォローとして、次回の観望会には優先的に無抽選で参加できる仕組みもなんか、募集記事に明記すれば、レピーターの増加も期待できるかなとも思います。

ところでボランティア参加の恩恵とも言えることとして今回も幾つか得ることがありました。大村先生から観望会なのに思いかけず天体物理というか電気関係分野のオーロラ現象、ホイッスラーモード、コーラス放射の話が聴けたことです。具体的に可聴周波数が録音されたものを聞くことが出来感激しました。残念ながらVLF帯の発生機構など詳しく聞くには時間が短すぎました。私自身以前から興味を持っていた分野であっただけに、これだけでも今日参加した価値は十分ありと感じた次第です。「ザートリウス」なるものを初めて紹介して頂き、太陽観測の研究現場を垣間見ることも出来ました。いつか、昼間の晴天時における太陽観測も是非とも体験したいものです。

1日中降り続く「雨の花山天文台」にはまた別の趣がありました。ぜひ次回の観望会が晴れますように！